

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2024年 6月 25日	
所属部局・学年	野生動物研究センター・修士1年
氏名	大野円花

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
日本
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
海生哺乳類調査実習
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
2024年4月23日 ~ 2024年4月27日 (5日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
おしよる丸
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
海棲哺乳類を研究するためのフィールドワーク、特に船上での調査に必要な基礎的生活技術と安全確保法、調査手法を身につける。 【成果】 おしよる丸では、主に海棲哺乳類の目視観察方法と船上生活について学んだ。 初日はかなり揺れが大きく、実習生の多くが酔ってしまった。その中で、お互いに支えあうことの大切さを学んだ。また、目視観察では、私はほとんど何も見つけることができなかったが、双眼鏡を使った目視観察の方法や、天候記録や目視記録の方法を学んだ。 船上での生活では、とにかく時間を守ることが重要だと学んだ。同じお風呂を共有し、目視観察も時間ごとに分担して行っていたため船員さんや他の実習生に迷惑をかけないように時間を守ることを一番意識した。しかし、私は食事に要する時間が長く、船員さんに迷惑をかけてしまったため、素早く食事をとることができるように努力したいと思った。 また、船では24時間誰かが必ず働いている、言い換えると24時間常に誰かが休息をとっているため、廊下などではなるべく足音を立てないように静かに行動しなければならないことも学んだ。 最後に、とにかく船上ではご飯の時間が楽しみで仕方がなかった。毎食、あたたかくとてもおいしい食事を用意して下さっていたため、目視観察中もずっとご飯のことで頭がいっぱいだった。 学びが多くとても充実した時間を過ごすことができた5日間だった。

図1: おしよる丸

図2: アッパーブリッジからの景色

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



図 3: ご飯



図 4: 晩酌

6. その他 (特記事項など)

三谷先生、おしよろ丸の船員の方々には3日間お世話になりました。心より感謝申し上げます。